



No.74 国家の本質が見えてくる8月15日 アフガニスタン 香港 ミャンマー そして日本



(画像引用元:yahoo ニュース (AFPBB News)より)

2021年8月15日、タリバンがカブールを制圧しました。

国家承認に至るかどうかはわかりませんが、世界はこれからナマの暴力が国家権力に変わるプロセスを目の当たりにすることになるでしょう。

欧米諸国も自国民を保護するためには、現場で銃を持っている勢力を相手に交渉するしかありません。タリバンはアメリカが政府軍に供給した大量の最新鋭兵器を手にして、その持つ力=暴力=武力=実力=権力を格段に高めるでしょう。

現場に武力がなければアメリカもイギリスも何もできないという現実をイヤというほど見せつけられています。

戦闘状態から平時に移行するに従って、軍事力は治安維持力=警察力となって、国内の支配力を確立していきます。そこで掲げる理念が何であれ、強い者が権力を握るという現実に抗うことは難しい。

どんなに民主主義を叫んでも、タリバンがイスラム原理主義による統治を理念とする以上、政府の正統性(legitimacy)はイスラム法にあるのであって、選挙がそれに優越することはないでしょう。

香港は100年以上欧米の価値観を共有できる地として中国の中に存在していました。しかし1997年にイギリス軍が撤退してからは、それを担保する実力を持つことはできなくなりました。中国の一部と認めた以上、誰も中国の支配力が及ぶことを否定できないわけです。



谷口博文の政策イノベーション

Date : 2021年08月22日

中国の支配原理は力です。秩序を維持する実力を持つのは共産党。したがって選挙で共産党の支配をくつがえすことは容認しません。香港でも同じです。

圧倒的な実力行使の前に選挙が無力となる事態は、ミャンマーでもベラルーシでも起こっています。中国は一貫して「強いものが支配する」という現実を肯定し、選挙不正や人権抑圧の主張を内政干渉として退けますが、それは自国の統治原理と一致しているからです。

動乱からしばらく時間が経過すると、日常の細かなルールが警察権力によって執行されます。国内統治は治安維持という実力行使の延長線上にあり、反発や抵抗は実力で事前に摘み取られ、秩序の回復となって、国家の体裁を整えていきます。

それで国民が幸せなのか。国によって違うでしょう。日本も敗戦から米国統治を経て今日に至りました。アフガニスタンはどうか。

私は血を流さずに選挙で政権交代できる民主主義のありがたさを感じずにはいられません。

要するに私が言いたいことは、法と秩序、民主主義を実現するには、それを犯す暴力に対抗する武力、実力が必要だということです。国際社会でも国内でも同じこと。司法の象徴として天秤と剣を持つ正義の女神像がありますが、剣なしに正義の実現はありません。

日本は国際社会において武力の行使を否定し、国内において警察の実力行使に及び腰ですが、民主主義を守り法と秩序を守るには必要なものなのです。

奇しくも8月15日。

日本では戦争は過去のもの、忘れないよう子供達に語り継ぐものとされています。でも世界は今でも毎日が戦争中です。その悲惨さをなくすにはどうすればいいのか、他の国はどうしようとしているか、日本はそれを他人ごとにしてしまっていいのか。現実を直視し、昔話としてではなく今、子供たちとともに考える時だと思います。